

初恋

♀

JK

♡

JK

JK

JK

TYPE STAR

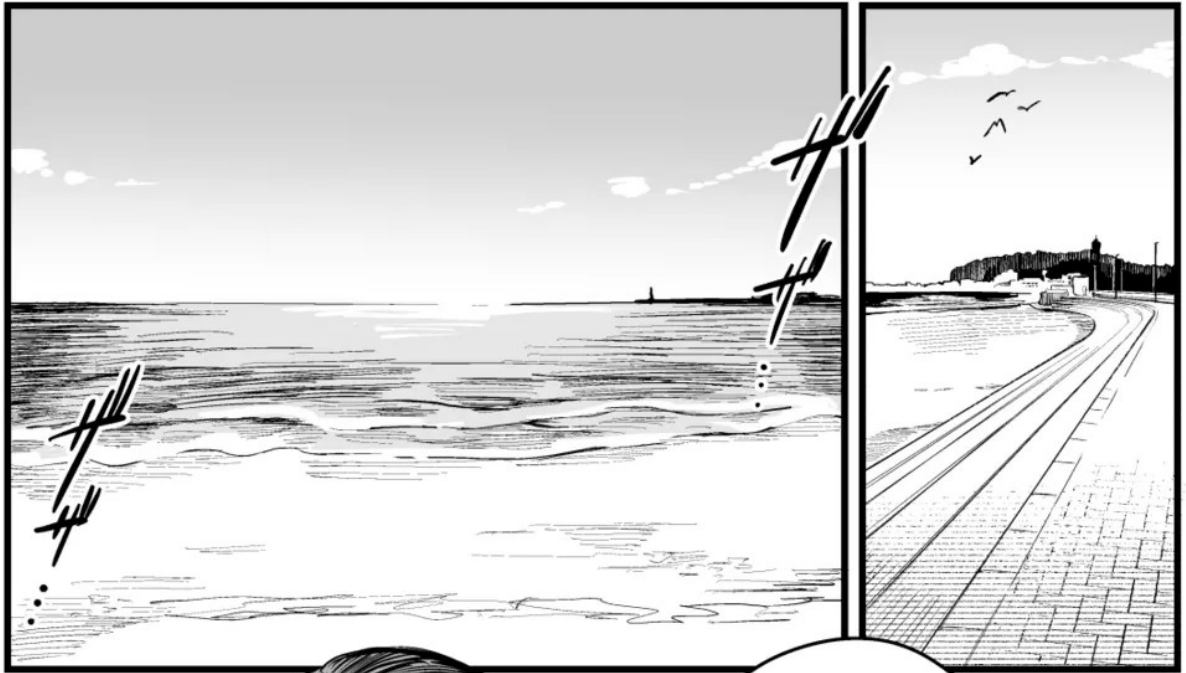
# 初恋は苦い青春の味

siu



無断転写・複写・転用・web上へのアップロードを禁止します。

ホクロを忘れるな





当時は俺なりに  
大事にしてきた  
つもりだったけど



別々の大学に  
なってからは  
疎遠になって――





それを言うなら  
すみちゃんだって  
……

全然  
変わってない



そりゃ  
わかるよー

だって  
帆士くん  
全然変わって  
ないもん

そう？

うん……  
それにしても  
よくわかったね  
俺のこと

わー！  
本当に  
ビックリした！  
4年ぶり？



もう  
会えないかと  
思ってた

隣座っても  
いい？

あ……  
もちろん



ん……



あれ  
……

いま俺  
なんか  
へんなこと  
言った……？



帆士くんが  
そう言うなら  
そうなのかも？



あ……



帆士くんは



…わたし  
ここまで  
電車一本で  
これなんだよね  
だから  
休みの日は  
一人で散歩しに  
きたり…

そうなんだ  
なんかいいね



そういえば  
スミちゃんは  
どうして  
ここに…?



いやっ  
これは  
その…

……

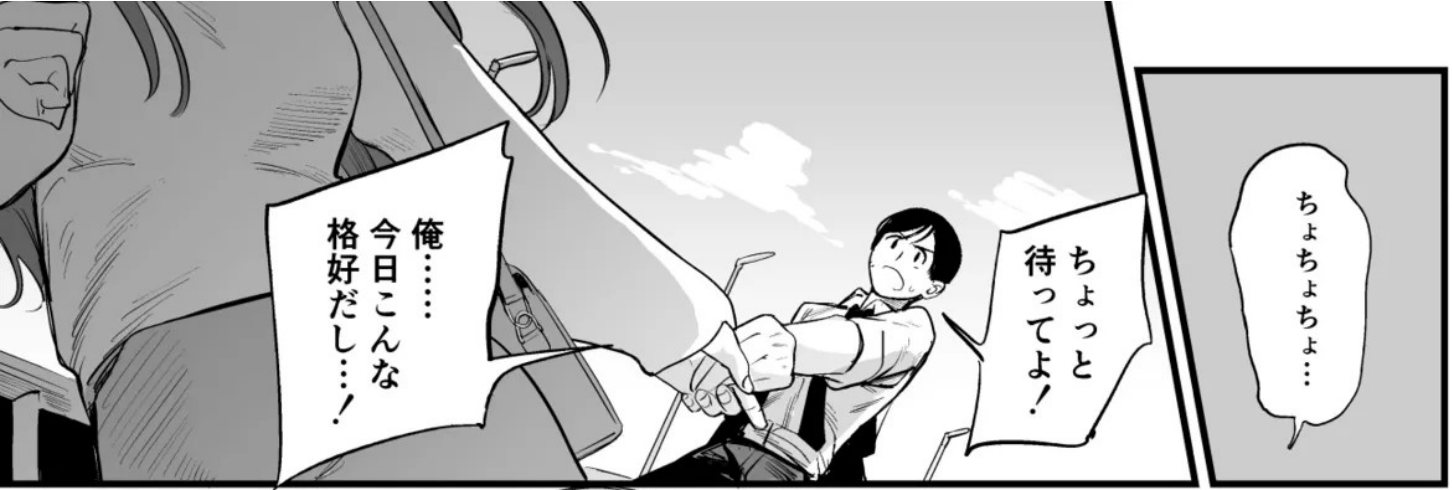


付き合っ  
て!

え…?

よーしっ!

じゃあさ  
このあと  
時間  
あるなら



俺……  
今日こんな  
格好だし……!

ちよっと  
待ってよ!

ちよちよちよ……



なに  
言ってるの!

せつかくこんな  
素敵なおところに  
来たんだよ?

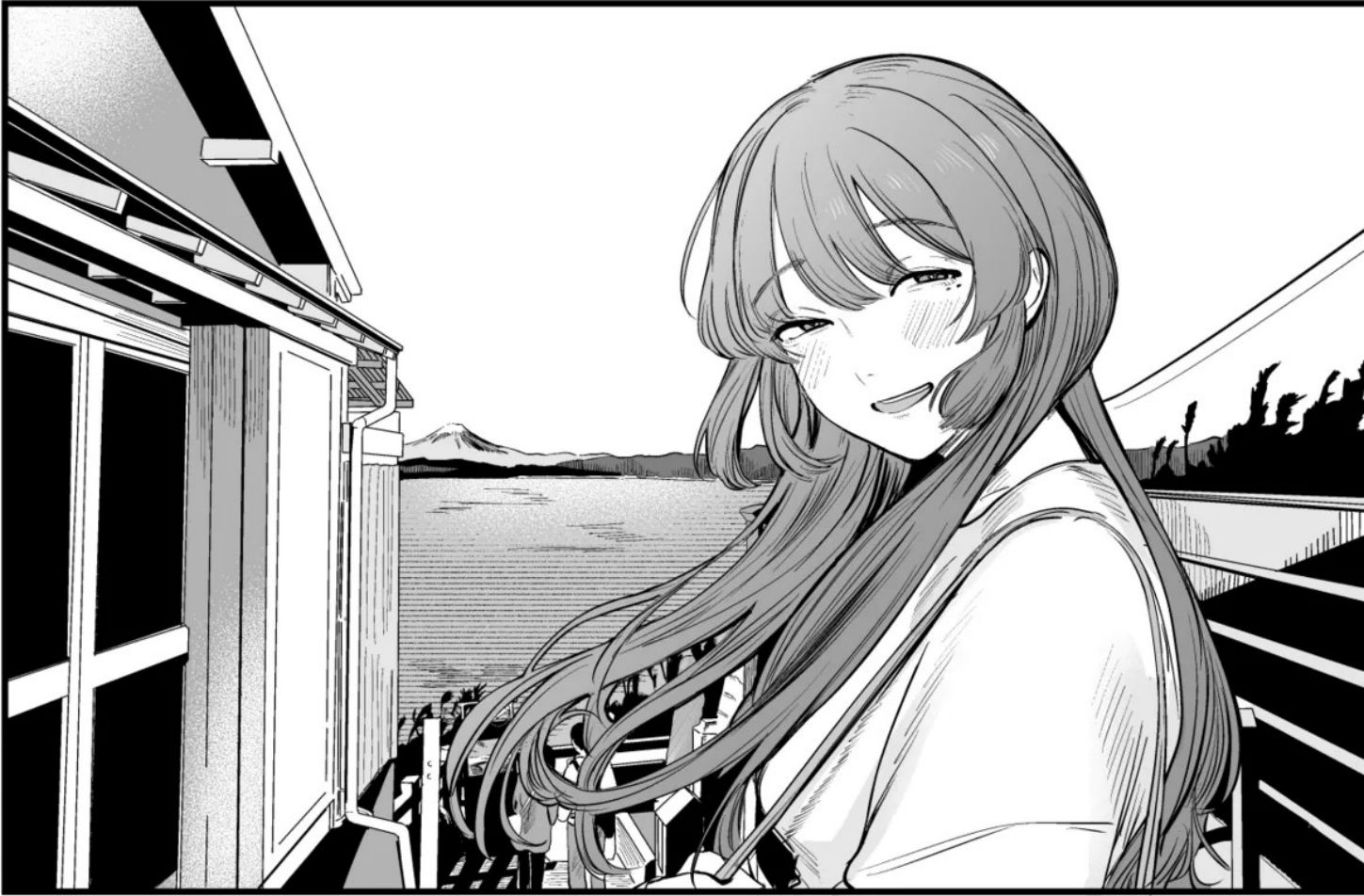


ちよっと  
変わったかも……

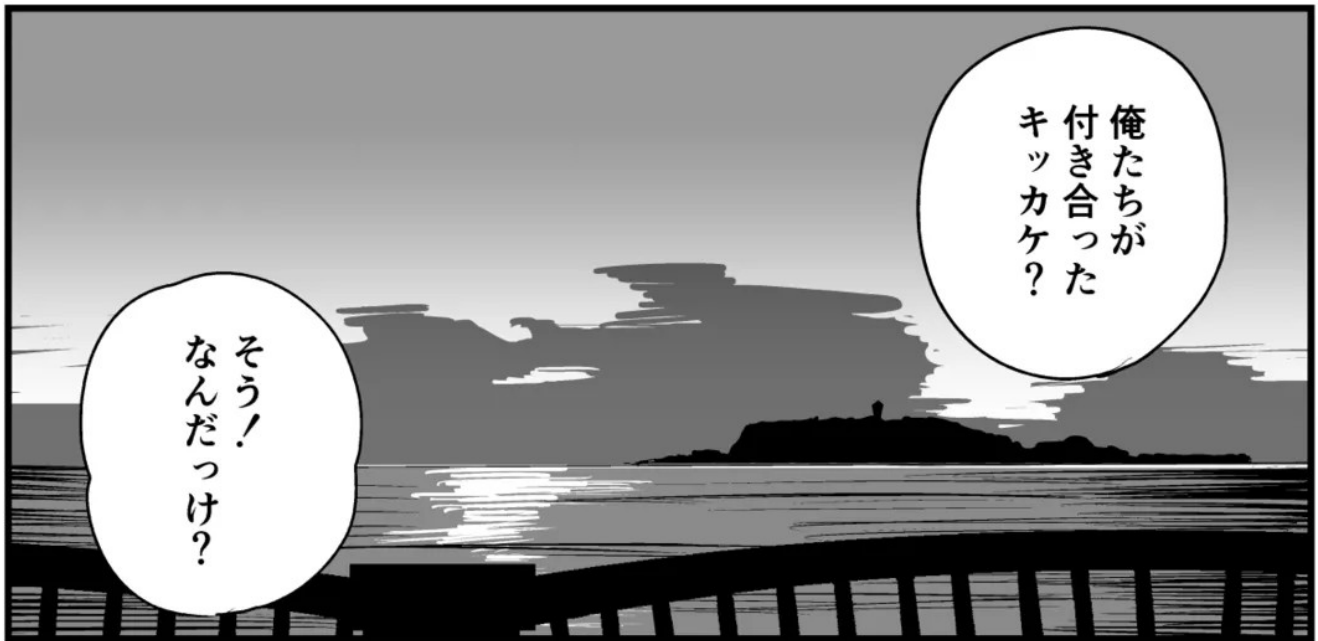


……  
たしかに

だったら  
楽しまなきゃ!

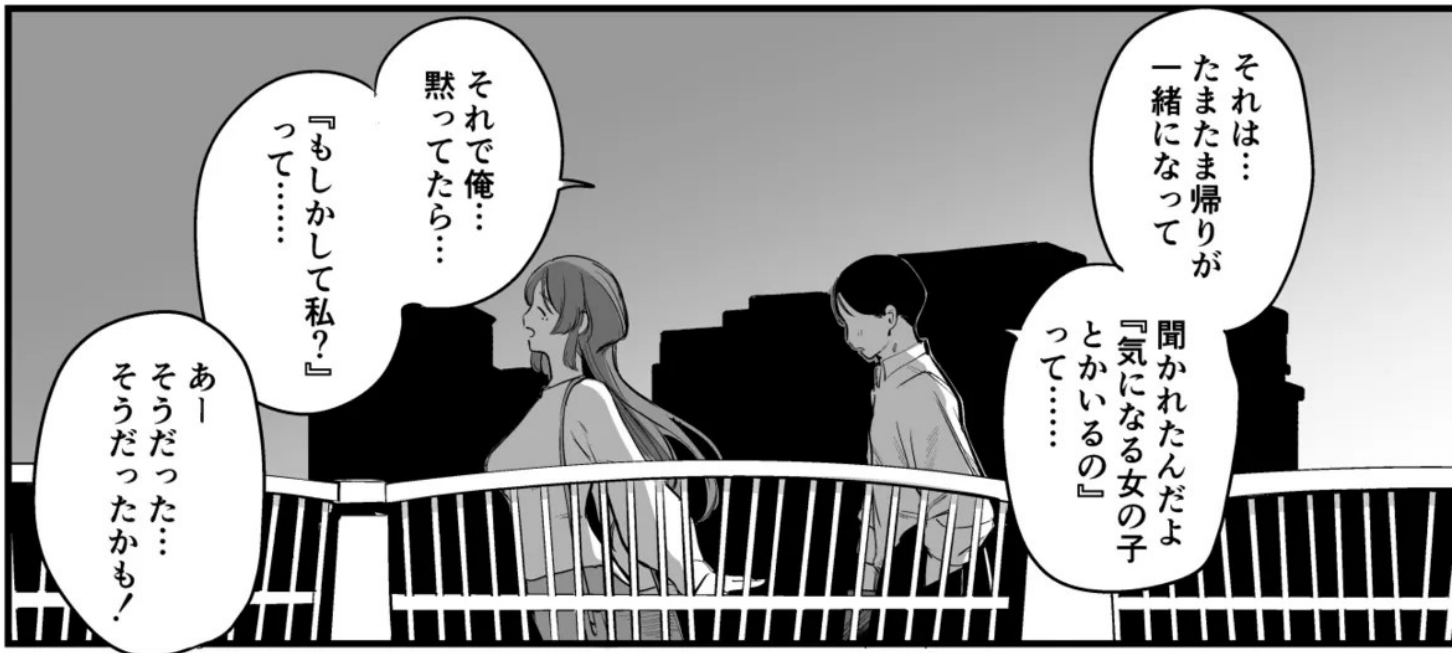






俺たちが  
付き合った  
キツカケ?

そう!  
なんだっけ?



それは:  
たまたま帰りが  
一緒になって

聞かれたんだよ  
『気になる女の子  
とかいるの』  
って……

それで俺:  
黙ってた……

『もしかして私?』  
って……

あー  
そうだった:  
そうだったかも!



はは……



アハハ  
なんか  
帆士くん  
らしーね



でも  
いいの？



…相変わらず  
優しいんだね

？



よかったら  
また—

そろそろ  
遅くなるから  
もう…  
帰ったほうが  
いいよ



今日は  
久々に  
楽しかった—

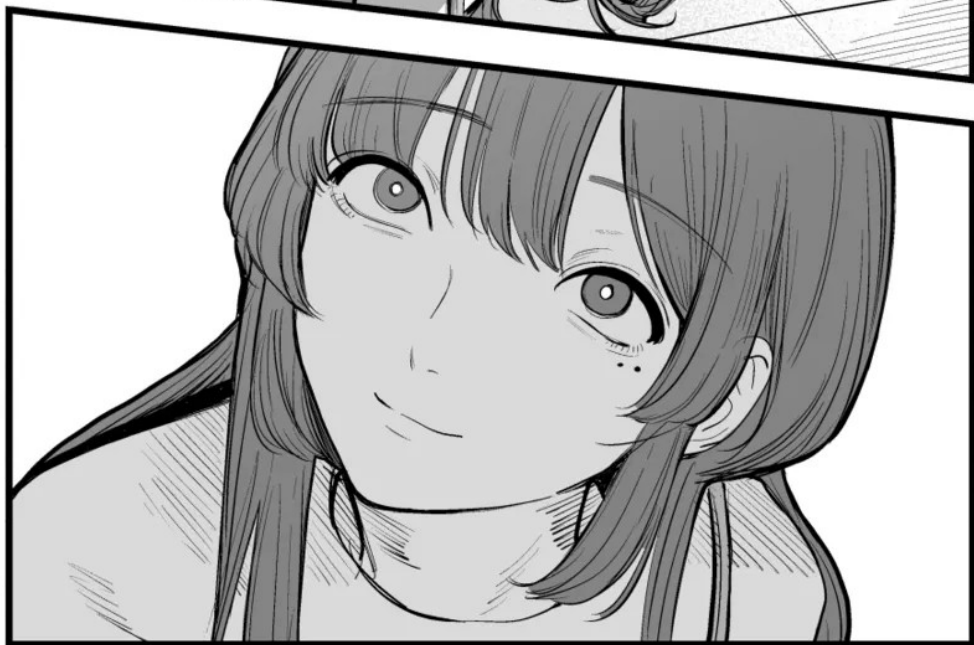


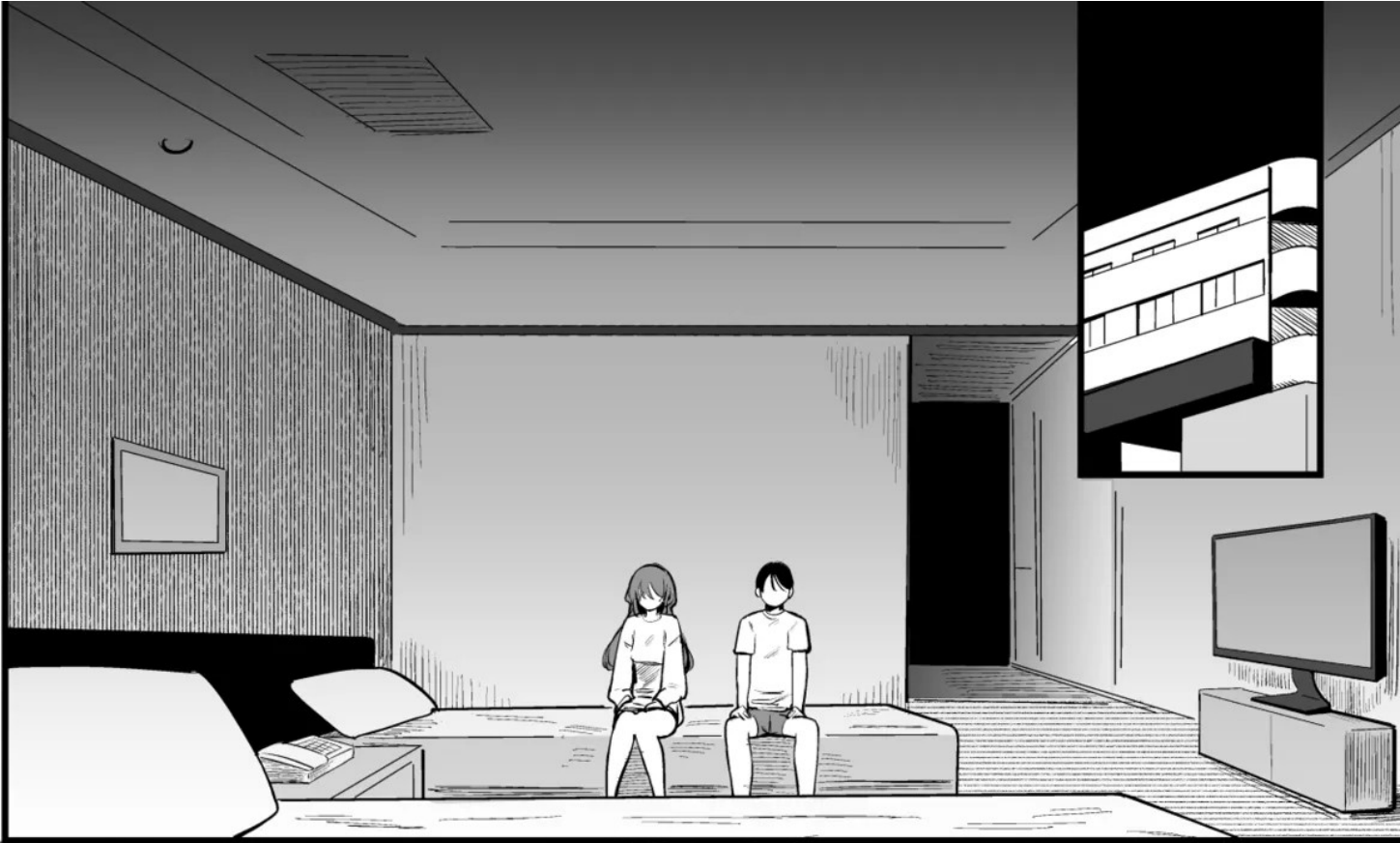
まだ…

元気ない  
みたいだけど…



え…？



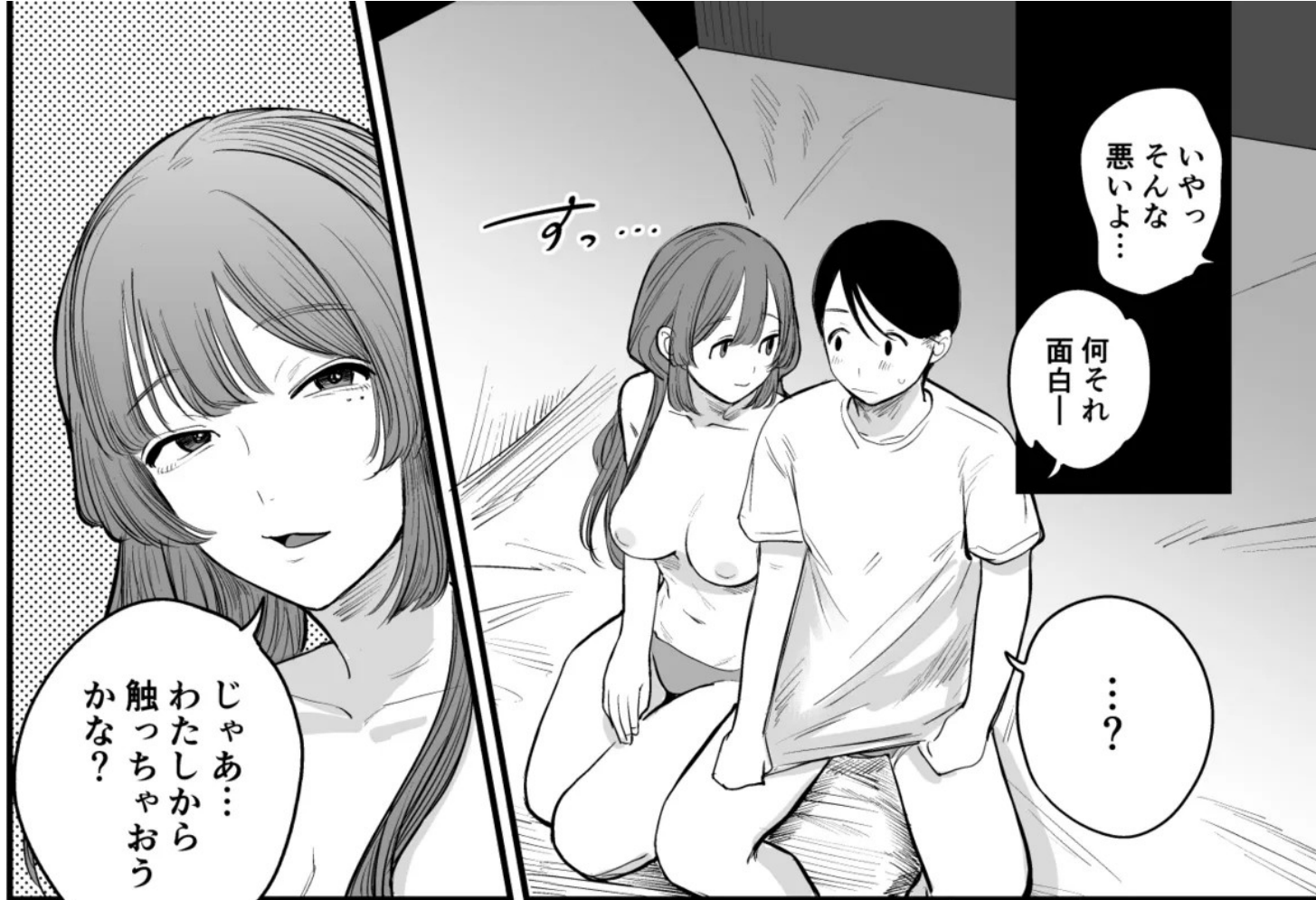


もっと何か話すべき？  
とはいえ何を話せば……  
ヤバいや止まんなくなつてきた  
だから嫌だったのに……

もう帰りました  
グッ イッ

……  
外して？





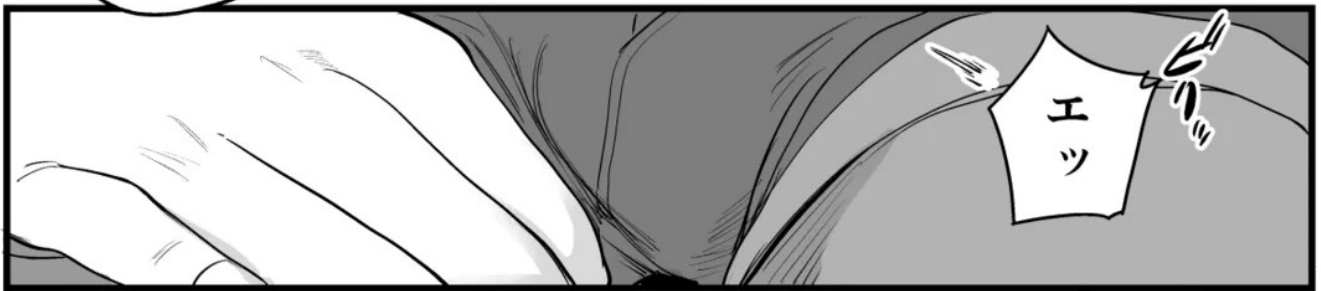
いやっ  
そんな  
悪いよ...

何それ  
面白ー

す...

...?

じゃあ...  
わたしから  
触っちゃおう  
かな?



エッ



脱がせて  
くれた  
お礼ー

いや

待っ...



なんだ  
ちゃんと期待  
してるじゃん

あの...  
ちよっと...



ああ…っ

サッ  
サッ

よく分かん  
ないなー

なんで  
遠慮するの？



ちや  
ちゃんど  
触って…

ほしい  
…です

ふーん？



なん  
でって…

どうして  
ほしい？



帆士くんの  
口から  
聞きたいなー

うろうろ…



ほらほら〜

あー  
あー



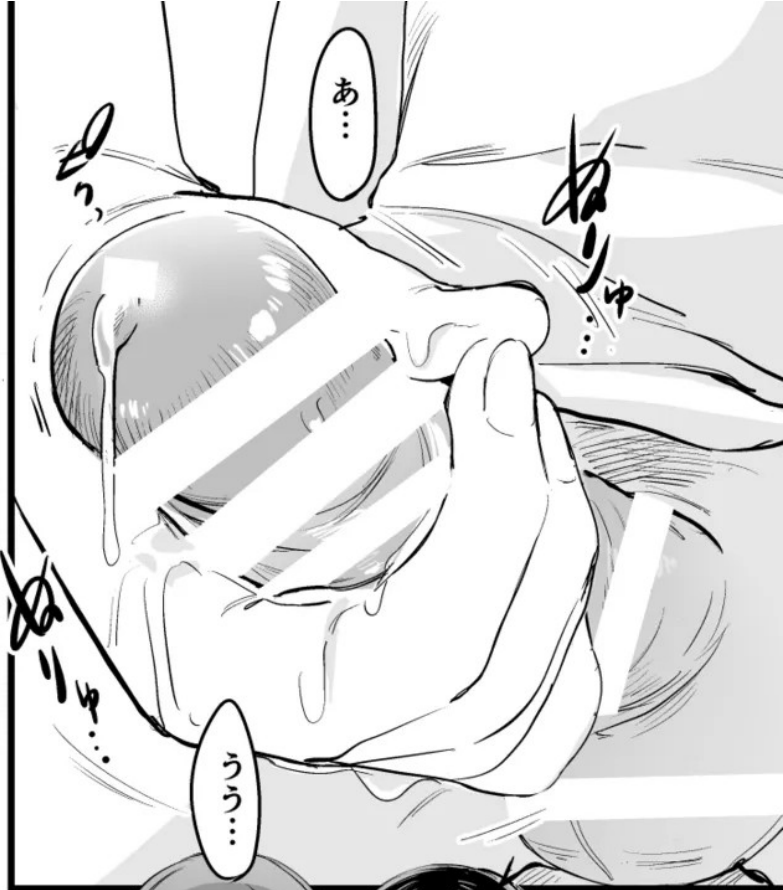
…うん

気持ちいい  
…?



…

女の子に  
触ってもらった  
ことある？



あ…

うう…

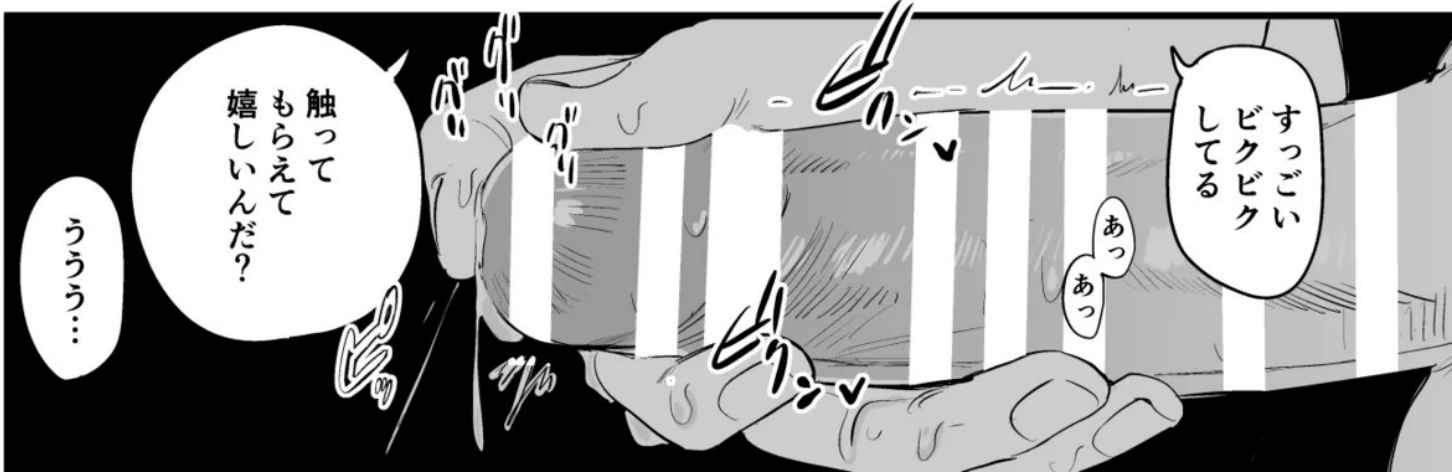


こんな…  
こんなことって  
…

帆士くんは  
色々考えすぎ  
なんだよ

考えたって  
分かんない  
ことは  
あるじゃん

大事なのは  
今自分が  
どうしたいか  
なんじゃない？

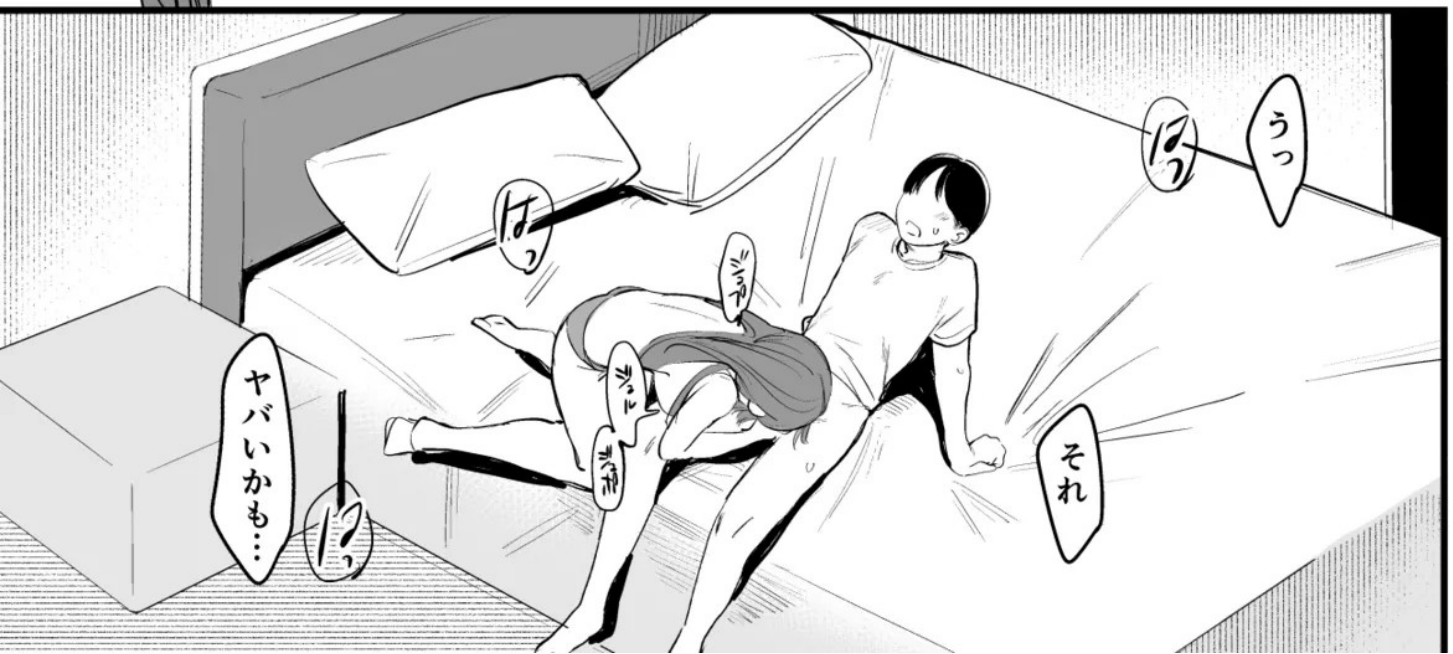
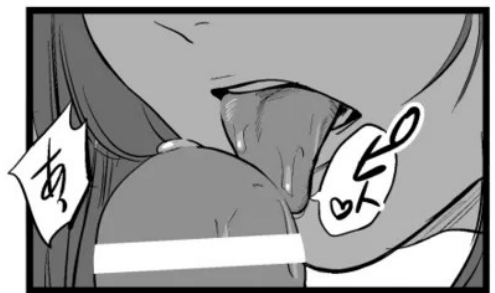


すっごい  
ビクビク  
してる

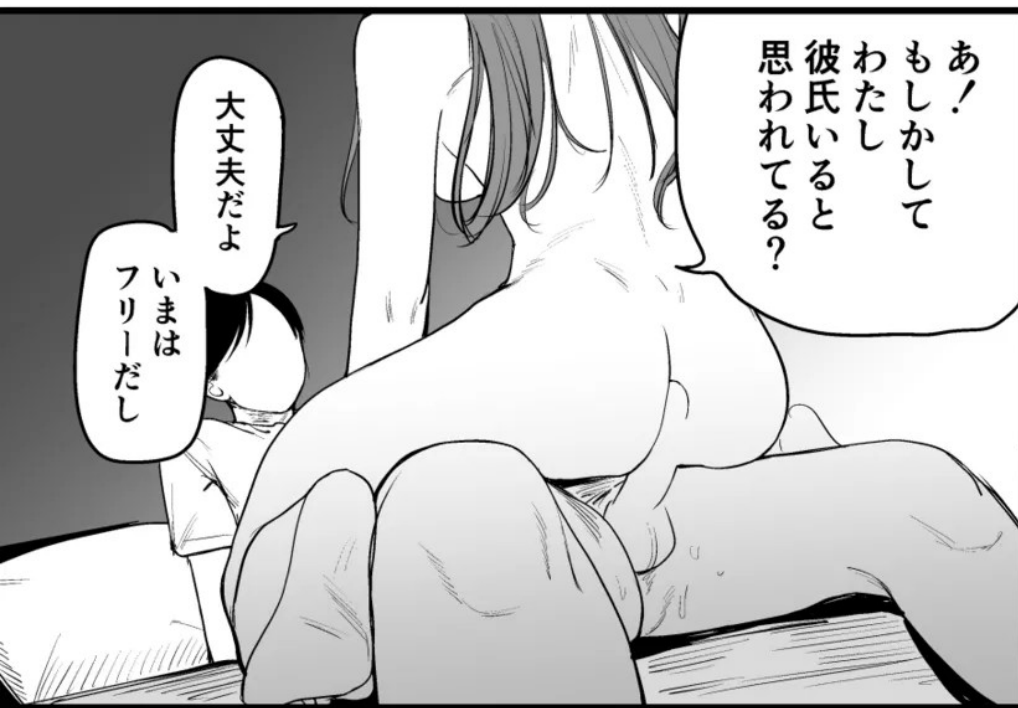
あっ  
あっ

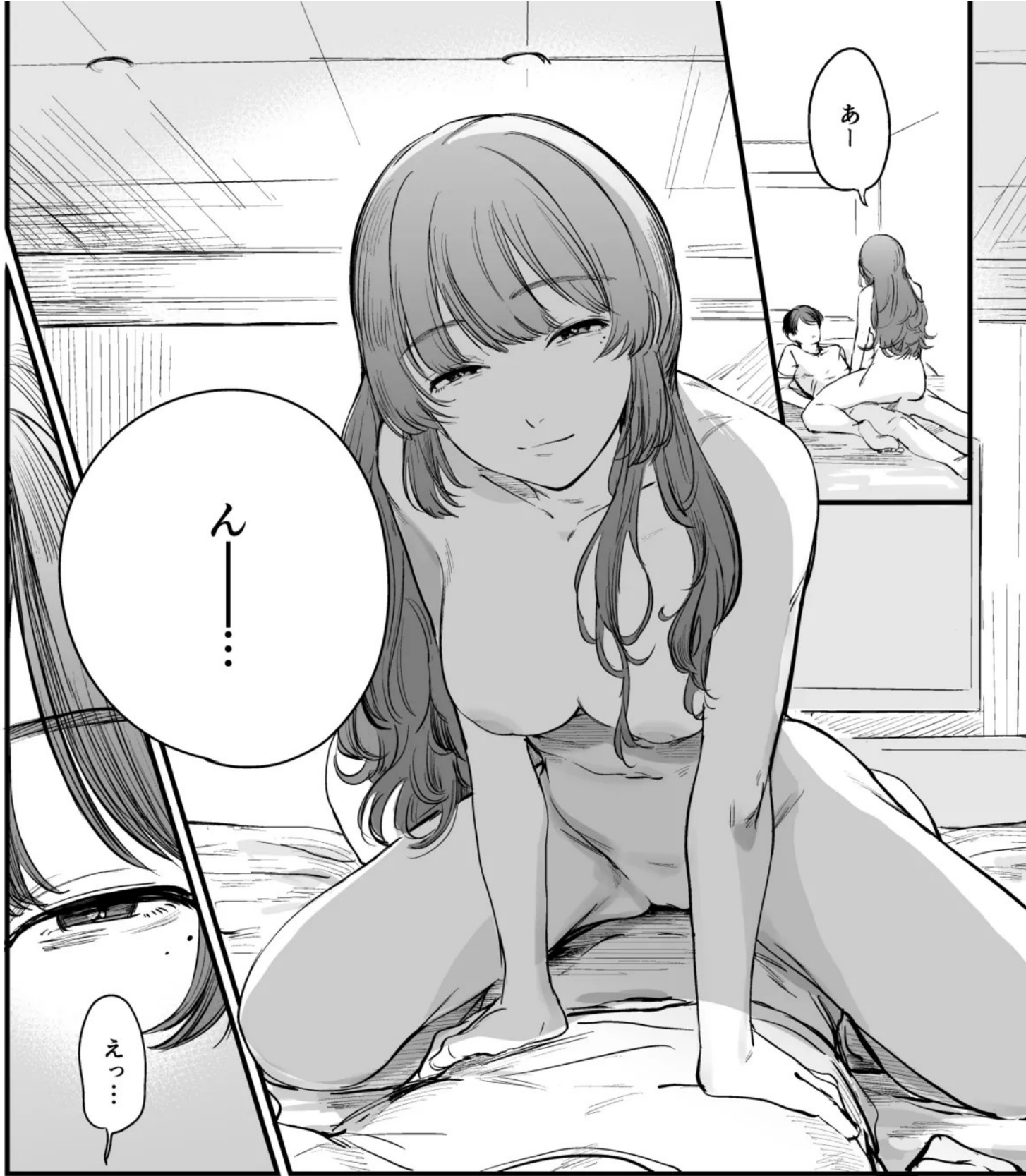
触って  
もらえて  
嬉しいんだ？

ううう…





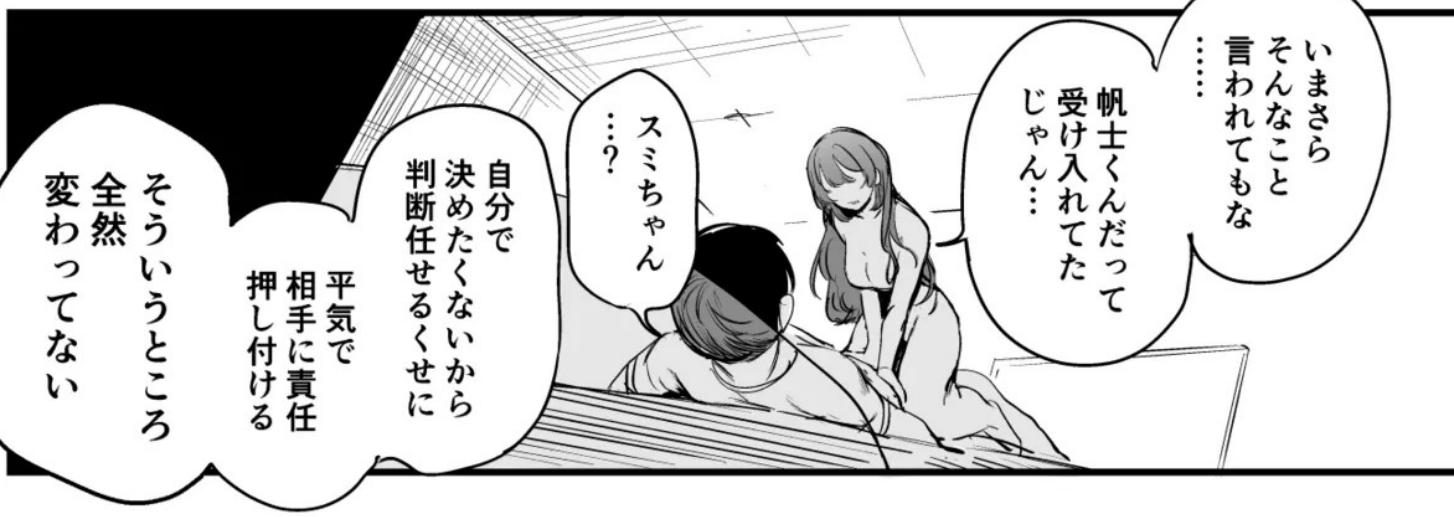




ん  
—  
…

えっ…

あー



いまさら  
そんなこと  
言われてもな  
…

帆士くんだって  
受け入れてた  
じゃん…

スミちゃん  
…?

自分で  
決めたくないから  
判断任せるくせに

平気で  
相手に責任  
押し付ける

そういうところ  
全然  
変わってない

変わらないのは  
帆士くんの  
自由だもんね？

まあね？

いや…  
それは！  
スミちゃんが  
大切だから  
……

でもさー  
……

優しいって  
いうのは  
別に――

褒めてる  
ワケじゃ  
ないからね  
……？





そりゃ  
わかるよー  
帆士くん  
全然変わって  
ないもん  
だって

...



アハハ  
なんか  
帆士くん  
らしいーね

相変わらず  
優しいんだね

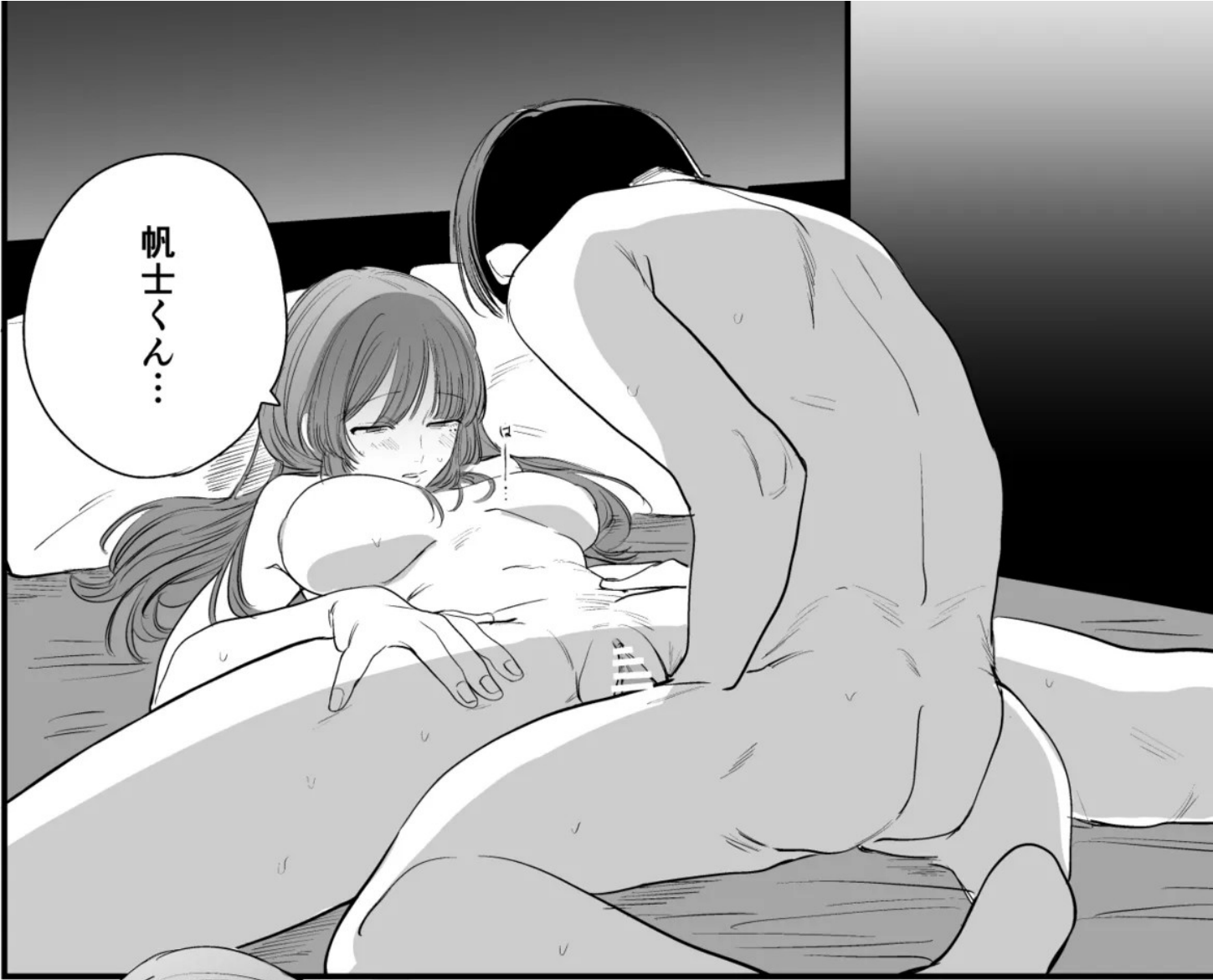
?

そういう  
こと...









帆士くん...



んッ

んんん...

ズッ  
ズッ



待って  
まだ...



あ  
あ...

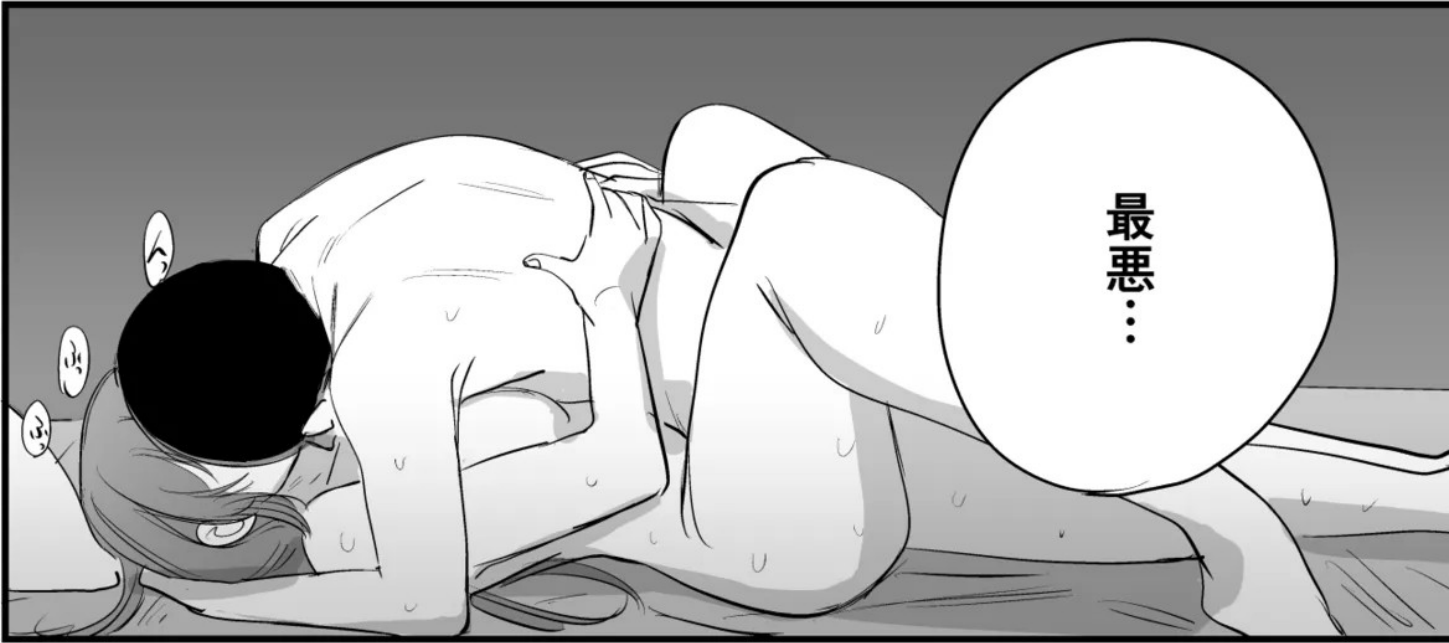
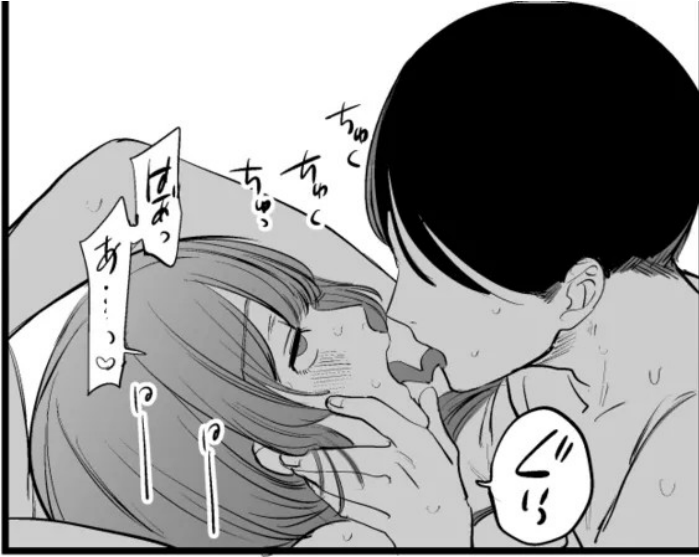


あ  
あ  
あ...











ぬぬ  
う...う...

あ

ぐ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ

あ

あ

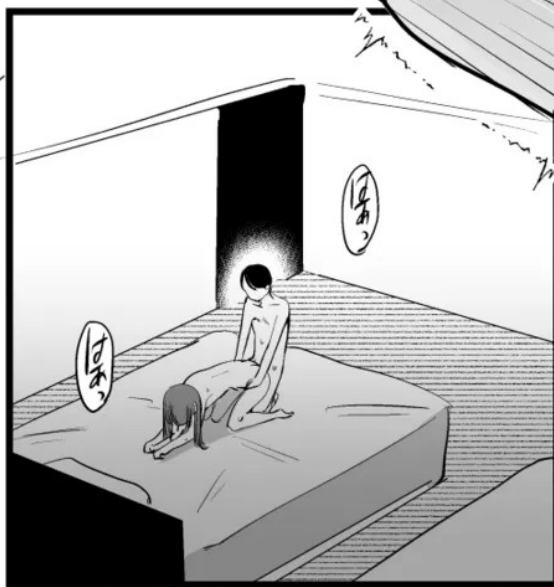
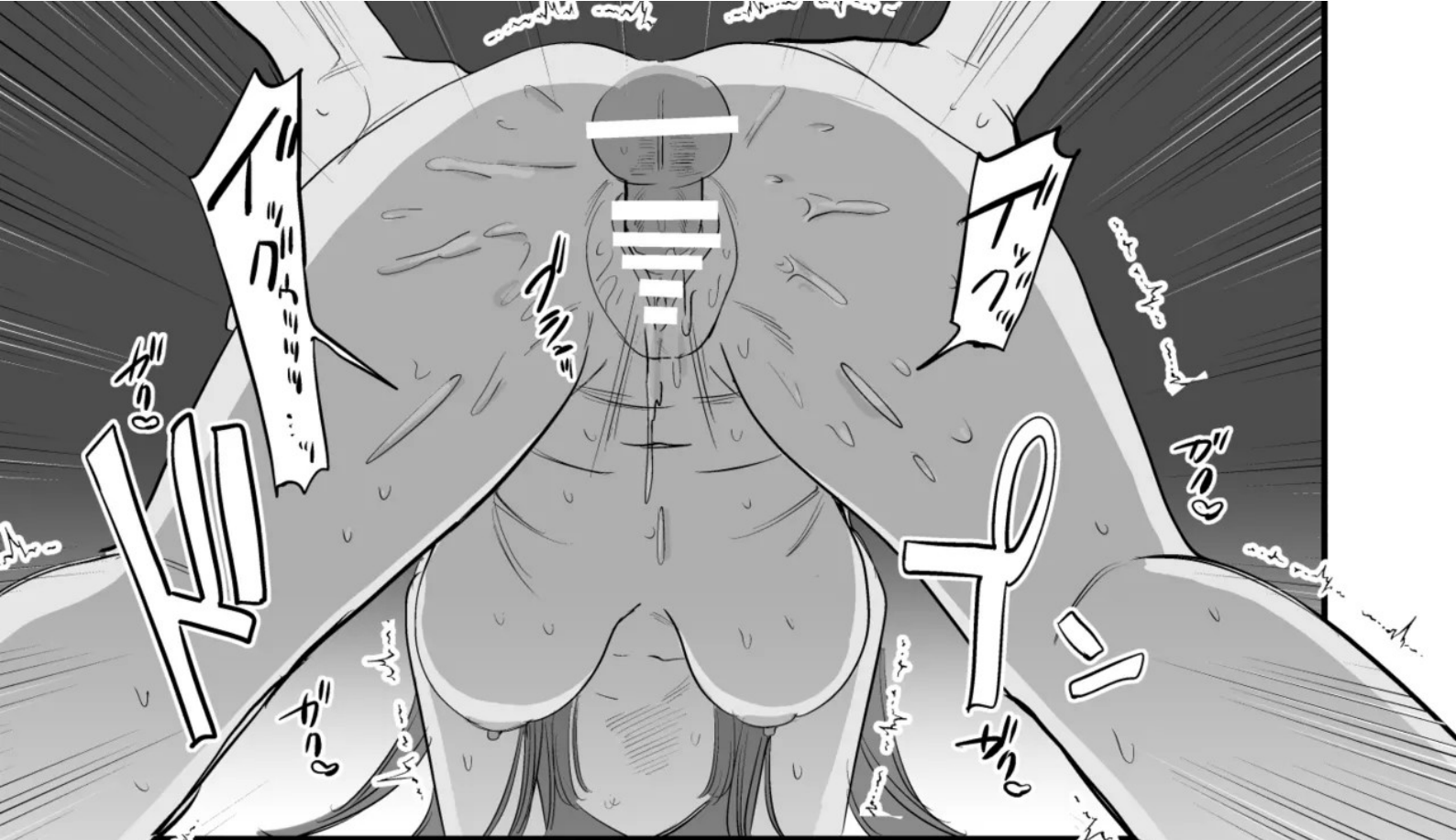
P

P















もし  
あのとき



スミちゃんともっと話していたら

スミちゃんをもっと知ろうと  
していたら

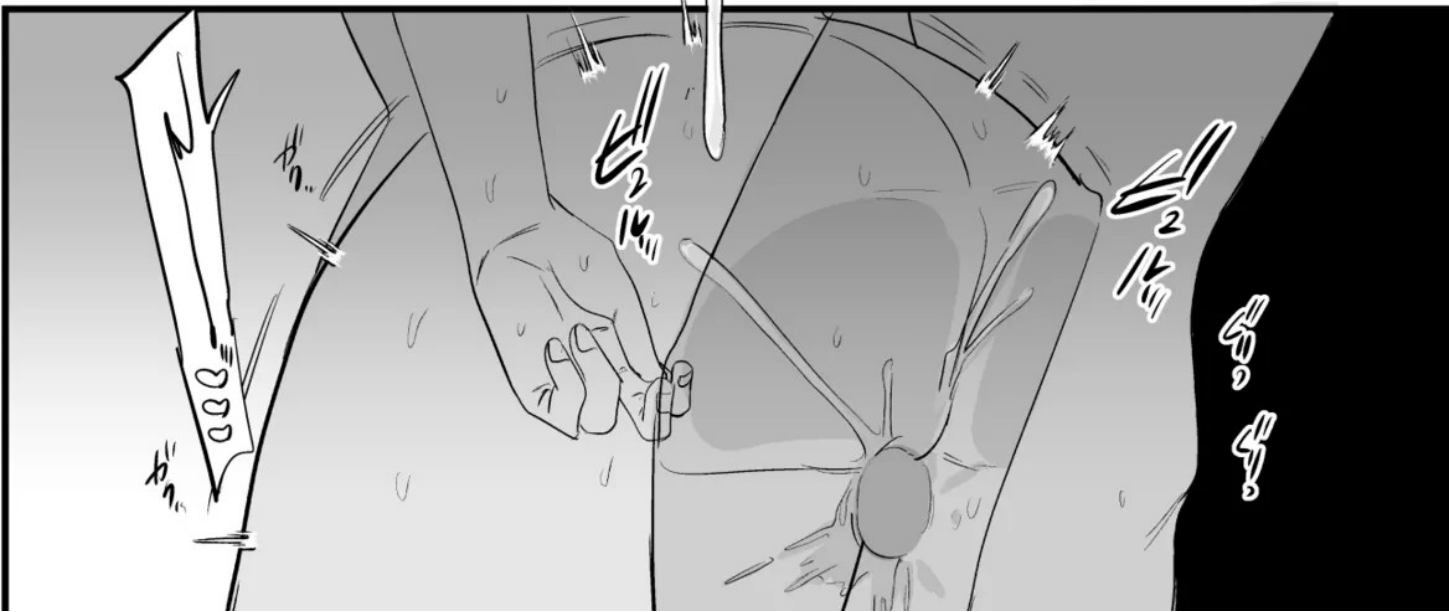


スミちゃんから逃げずに向き合っていたら

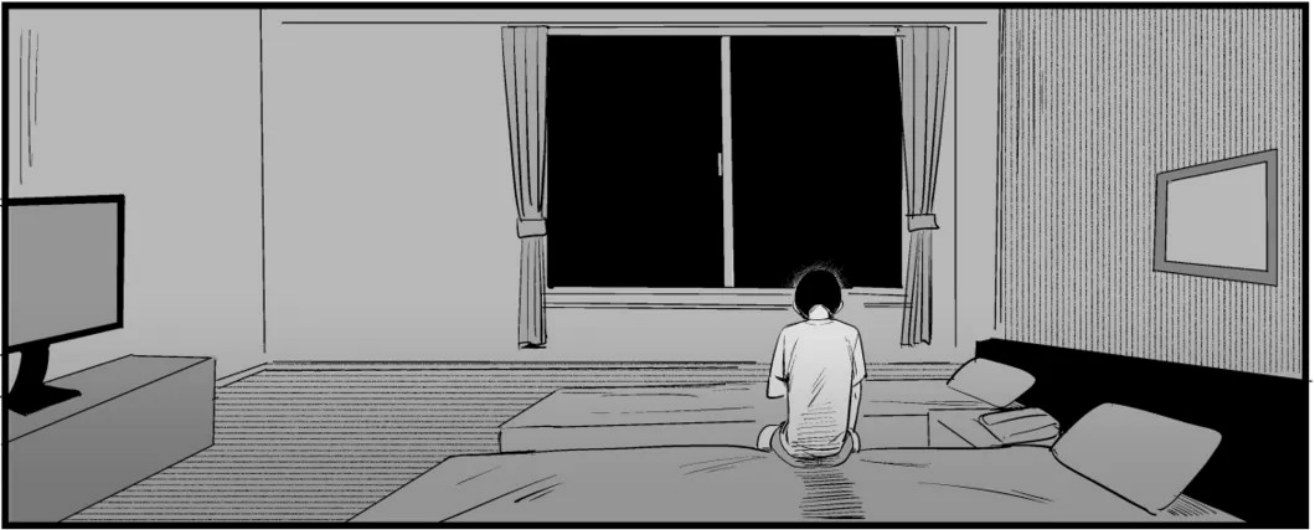
違う  
未来だって——

帆士くん!











仕事やめよ…

## 『初恋は苦い青春の味』

発行日 2024年11月17日

発行者 siu  
サークル ホクロを忘れるな.

連絡先 cuu5\_etml@gmail.ne.jp  
印刷 サングループ



pixivFANBOX:  
<https://cu-u5.fanbox.cc/>



X:  
[https://x.com/Onikuya\\_san\\_](https://x.com/Onikuya_san_)



ネーム版の表紙

キャラデザ時のスミちゃん  
長い髪を描き慣れていなかったため  
苦労している様子が窺える

よ読みいただきありがとうございました！  
Special Thanks : ネーム版を読んだ皆さま





優しいって言うのは別に——  
褒めてるワケじゃないからね……？

仕事に疲弊し現実から逃げるように江ノ島を訪れた帆士<sup>ほし</sup>の前に現れたのは、  
高校時代の彼女、『スミちゃん』だった。  
当時と変わらない態度で接してくれる『スミちゃん』に対し、帆士は  
戸惑いながらも徐々にその明るさに惹かれていく。  
ところが、『スミちゃん』には思うところがあって——